平成３０年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第１回）議事概要

○日　時：平成３０年９月２０日（木）１４：００～１５：２０
○場　所：琉球大学本部棟　１階　総合企画戦略部会議室
○出席者：新田　早苗 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、金城　徹 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長、中田　竜次 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代　真紀 委員（沖縄大学総務課長）、島袋　常義 委員（沖縄女子短期大学事務局次長）、比嘉　美昭 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、渡久地　寛 委員（沖縄県立芸術大学総務課長）、荻堂　盛淳 委員（名桜大学総務課長）、田中　克代 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、冨田　和宏 代理出席（沖縄工業高等専門学校事務部長）、照喜名　一 委員（沖縄科学技術大学院大学技術開発ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ R&D 担当審議役）
○陪席者：大城　光雄（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課企画係長）

【要旨】
議題
１．挨拶
新田事務局長から挨拶があった。

２．全国大学コンソーシアムの現状について
事務局から、資料に基づき、全国の大学コンソーシアムの現状について説明があった。

３．大学コンソーシアム沖縄のこれまでの活動と今後の活動について
事務局から、資料に基づき、大学コンソーシアム沖縄の法人の概要とこれまでの活動について説明があった。その後、意見交換を行った。主な意見と決定事項は以下のとおり。

【意見交換の概要】
（事務局長）
・大学コンソーシアム沖縄に対する考え等なにか、あれば発言いただきたい。

（沖縄科学技術大学院大学）
・大学コンソーシアム沖縄が創設された時から、ボタンの掛け違いにより、何のために大学コンソーシア沖縄を作るのかというところがしっくりとこない間に、事業が走ったという状況である。その中で、沖縄県も補助事業や委託事業を進めてきた。今回、琉球大学の事務局が、しっかりと事務体制を構築しようとしていることについては感謝を申し上げたい。資料にもあるように、各大学の課題について、どのようにお互いが連携し、協力して解決できるのかが重要だと思う。これまでは、各大学とも来た事業を受けていたのがこれまでの流れだと思う。また、事務局体制については、琉球大学に負担を多くかけていた、それぞれ大学等の規模や特色が違う、沖縄らしいということのどこを目指すのか、それが課題と考える。定期的に運営委員会を開催することについては大賛成であり、コンソーシアムが活性化することにより、各大学が、地域が沖縄県のためにどのように活かせるのか、また、沖縄県の２１世紀ビジョンとの整合性も押さえて取り組んでいきたい。

（沖縄国際大学）
・学内において大学コンソーシアム沖縄についての議論が全くない。２年間プログラムに携わったが、大学コンソーシアム沖縄からのプログラムの提案については協力をしてきた。学内での大学コンソーシアム沖縄に対する反応、期待値、どのようなことを大学コンソーシアム沖縄でやってもらいたいのか、学内で議論されていないのが現状である。

（名桜大学）
・沖縄国際大学さんと同じ状況である。学内の教員には、色々なイベントの際に学内で周知して学生や教員などを集めていた状況である。もう少し学内でのコンセンサスをしっかり得ることにより、学内での深まりが出てくるかと思う。

（沖縄キリスト教学院大学・短期大学）
・本学は小さな大学であり、その都度、通知などをメールにより周知している。教員は多忙で週末には何かのシンポジウムで講師として参加している状況である。教員としては、これ以上、新しい事に関わりたくないと思っている。事務も担当部署が最小限に行っており、地域向けの公開講座もノルマとしてやっているのが現状である。学生サミットについて関わった学生にとってはやって良かったと思うが、運営側と学生で、方向性にズレが生じていたという印象を持つ。

（沖縄大学）
・大学コンソーシアム沖縄に携わっているのは、学長と、総務課長の私が関わっている程度である。
色々な周知は、メールや会議で報告しているが、反応がなく、後回しになっているのが現状である。

（沖縄女子短期大学）
・これまでの意見と一緒であるが、関わっている事務職員を鼓舞している状況である。今まで３～４年やってきた中で、参加することでコンソーシアムができてきたのかと思う。関わった学生や職員については、良かったかもしれないが、コンソーシアム沖縄を今後どのようにやっていくのか、最初にもあったかもしれないが、これから教員をどのように巻き込んでいくのかである。手段として、公開講座があったかもしれない。全国の事例をみると、一つ思うのが、学生募集などでは皆で一緒にやれればと思う。

（琉球大学）
・全国大学コンソーシアム協議会の総会やトビタテ留学 JAPAN のコーディネーター研究会に参加して感じたことだが、沖縄と異なることは、他県は、陸路や鉄路で隣接する県や地域への移動が容易であることから、学生が地元に定着しておらず、地元に定着させるにはどのようなことができるのか、という危機感があり、地域課題解決のためのベクトルが一つの方向に向いているように思われる。例えば、学生を定着させるための方策として、奨学金制度があるが、地域の企業もお金を出している。運営がうまくいっている大学コンソーシアムは、事務局体制もしっかりしており、コンソーシアム石川などは事務局オフィスを市役所前に構え、加盟大学の広報活動も充実し、また、常時、８人～９人の職員もいる。企業や自治体の協力が大きいと感じた。

（沖縄科学技術大学院大学）
・単位互換はできるのではないかと県立芸術大学にいたときに思った。県立芸術大学の学生から、琉球大学の単位を取れたら良いという要望があった。問題は琉球大学側と感じる。琉球大学が簡単に単位を出すことができるのか、その課題について、琉球大学でどうにかできないか。

（沖縄国際大学、沖縄大学、沖縄キリスト教学院大学・短期大学）
・私立大学４大学では単位互換を行っている。学内で公募をかけて、学生を送り出している。そんなには多くはない。毎年、前期、後期と講義を決めている。経費はそれぞれの大学が持っている。
学生にとって沖縄キリスト教学院大学から琉球大学は近いが、その他の大学にとっては二の足を踏むと思う。また、自分たちの学生を中心に講義の受入を行うので、他の大学からの受入られる学生は少ない。現状では、学期ごとに２人～３人程度である。

（沖縄工業高等専門学校）
・沖縄工業高等専門学校では、本科が５年、専攻科が２年、その中で、専攻科の３年次編入学もある。入り口は１５歳、１８歳、２０歳である。また出口も細分化されている。工学部、生命科学、多様な分野に互換は可能かと思う。

（名桜大学）
・名桜大学では、県外で国内交流を行っている。半期や通年相手方の大学に行き、戻ってから単位を本学に読み替えている。協定大学として行っている。

（沖縄大学）
・沖縄大学では、国内留学として、法政大学などに派遣しており、科目等履修生として実施している。経費は相互不徴収としており、相互に来たり派遣したりしているが、学生の数は合わせてはいない。学生が来た場合には寮がないためアパートを斡旋している。

（沖縄国際大学）
・沖縄国際大学では、県外私立大学と、交換留学を行っている。九州や四国もあるが、関東を中心に行っており、地方は少ない。

（事務局長）
・琉球大学では、特別聴講学生の制度を設けており、北海道教育大学の釧路校や、東京農工大学へ１年あるいは、半期行かせている。派遣する前には授業のセットが済んでおり、取る科目が決まっている。レベルや成績もお互いの担当の教員が調べて学生のレベルを合わせるようにしている。

（沖縄科学技術大学院大学）
・個人的には、琉球大学に受け入れてもらいたい。提案としては、単位互換はハードルが高いが、解決するワーキンググループや定期的に話しあう場が必要と考える。また、共通の課題だが、これまで各大学ともやらされ感があった。各大学にとって、これまでの大学コンソーシアム沖縄の活動において、何の効果があったのか、学生にとって何のメリットがあったのか出し合って、まとめることも必要ではないか。

（事務局長）
・過去の効果を現時点で取ることは難しいかと思う。どのように教員を巻き込み、メリットとして認識してもらえるのかが、ポイントと考える。

（沖縄工業高等専門学校）
・ハードルが低い取組だが、キャリア教育の一環としての業界説明会などを過去に実施しているかと思うが、どうにか工夫できないかと思う。例えば、大学の説明会に他の大学の学生も参加できるようにしたり、仲介業者の役割を大学コンソーシアム沖縄が担うことも可能ではないかと思う。また、企業にとっても負担減となるのではないかと思う。これまで個人的に色々な地域を回ってきたが、決定的な沖縄の違いは、沖縄の業界のリクルートの初動が１～２か月程度遅いと感じる。

（事務局長）
・最近、琉球大学に、鹿児島銀行や熊本の肥後銀行から色々と話がきており、その中で銀行側から金融だけに限らず業界ごとの研究会を開くことが可能と言っていた。会場やお金を銀行が持つことも可能であり、通常の企業説明会ではなく、どのような業者がどのようなことをやっているのかを、体感できる場を持つことが可能だと言っていた。そのような会に各大学も参加することも考えられるのではないか。それを提携的に開催することも可能ではないか。

（沖縄国際大学）
・県内の私大と琉大では就職指導協議会のような活動があり、似たようなことを行っている。それを広げて全体でやることも可能ではないか。キャリア教育では共同でやっているので、それとの違いを出す必要はあるかと思う。

（事務局長）
・研修事業として、SD や FD なども合同での開催も考えられないか。各大学でも FD や SD がやられているとは思うが、各大学ともそれが共通化していないと思う。
コンソーシアム京都などでは、毎年大きな研究会を実施している。学生募集に対するノウハウや入試を共同にするやり方、学習成果を可視化することが近年言われている。京都では、ある大学が開発したプログラムを他の大学が活用するということも行っている。設置申請や自己点検評価や認証評価などのノウハウを各大学で共通化することもコンソーシアムを活用したらメリットとなるのではないかと思う。それぞれの大学の特色に合った質の保証について、どのようにできるのかを皆で考えることも必要になるのではないか。琉球大学では、文部科学省に行く機会が多く、文部科学省から得た情報を共有化することもできるのではないかと思う。

（沖縄科学技術大学院大学）
・過去に沖縄県立芸術大学では、SD を名桜大学にお願いした経緯がある。それを大学コンソーシアムで作ってもらえれば、小さな大学にとってもメリットはあるかと思う。各大学の FD を担当する教員にとっては、悩んでいる状況であり、コンソーシアムのメンバーで担当者連絡会を持つだけでも大変なメリットがある。

（事務局長）
・To Do として何をすべきなのか、教員を巻き込めること、お互いのメリットになることなどについて取りまとめて行き、ここ２年・３年のうちに、何ができるのかをまとめ、それをやるために事務局としての体制が出てくるものと考える。琉球大学の内部においても、次年度の事務局体制についても検討している。今後、情報として出せるようになったら、皆様にも情報を共有したい。

【決定事項】
・各大学において、教員を巻き込み、事務も省力化をしながらできることを考えていきたい。これまで議論された、単位互換、学生募集活動、キャリア教育の共通化、FD/SD の共通化などについて、学内で学長や担当の教員などと相談して、ご意見を伺ってもらいたい。また、それ以外にできそうな事などがあれば、次回提案してもらいたい。様式は決めないが、事務局からメールによる依頼を行うので、それに対して返信してもらい、事前集約して、次回の運営委員会において議論することとする。

（以上）